

伴林光平

【ばんばやしみつひ】

幕末の志士・国学者。河内の人。国学を加納諸平・伴信友に学ぶ。国事に奔走、天誅組に加わり捕えられ斬罪。著「南山踏雲録」「野山のなげき」など。(1813~1864)

- 幕末辞典 -